

【資料2】

平成26度 嬉野市立久間小学校 学校評価結果

1. 学校教育目標		
いきいき久間っ子の育成		
2. 学校経営ビジョン		
めざす学校像	めざす教師像	めざす児童生徒像
○学びと活気に満ちた温 もりのある学校 ○地域とともに育む学校 ○歓声の響く学校	○一人ひとりの子どもを大切に、向き合う教師 ○向上心をもち、チーム久間の結束力を高める 教師集団	○くま:工夫して学ぶ子 … ・自分で考える子ども ・自分で創り出す子ども ・進んで活動する子ども ○つ:強くて逞しい子 … ・元気で健康な子ども ・基本的な生活習慣が身についた子ども ・ねばり強い子ども ○こ:心やさしい子 … ・思いやるのある子ども ・支え合う子ども ・生命を尊重する子ども ・地域を愛する子ども
3. 本年度の重点目標		4. 前年度の成果と課題
①「学力の向上」・・・工夫して学ぶ子プロジェクト ○獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成(算数科を通して) ○ICT利活用による授業実践の積み上げ ②「運動への親しみ」・・・強くて逞しい子プロジェクト ○どの子もその運動のもっている特性(楽しさ)に触れることができる教科体育の授業促進 ③「道德教育の推進」「地域連携の促進」・・・心やさしい子プロジェクト ○人権教育とリンクした道德教育の授業実践 ④地域人材、地域素材を生かした実践の充実 ○久間コミュニティと連携した授業・活動の充実		《成果》 ・昨年度に引き続き、本年度も3つのプロジェクト構成で運用した。学校目標である「工夫して学ぶ子」「強くて逞しい子」「心やさしい子」育成のため、それぞれの取り組みを、これらの言葉の3つのプロジェクトに分担し、計画を立て、実践は全職員で取り組んできた。中間評価を7月に行ったので、実効的なフィードバックができた。また、2学期の始業式では、各プロジェクトから子どもたちにも取り組みのアピールを行い、学校全体で取り組む体制ができてきている。 ・校内研修では、算数科の研究に組み、4年間が経過した。ICT利活用教育を絡めて、特にノート指導など書く活動に焦点を当てた上で、基礎的な学習習慣の土台を基に、自分の考えを表現し、伝え合う子どもの育成に組み、活用力の育成をねらった校内研究が、ずいぶん前進してきた。 ・小中連携教育に関する職員の意識も高まってきており、引き続き、授業等に関連づけながら取り組んでいきたい。 ・、地域連携教育面で、本年度はずいぶん進展が見られた。久間コミュニティと連携した地域連携のシステムが軌道に乗って来て、協力をさせていただく地域の方々がずいぶん増えてきた。さらに、久間コミュニティとの連携活動計画を学校教育計画とリンクさせ、確実に位置づけたことが功を奏した。 《課題》 ・電子黒板導入に向けて、ICT利活用教育に関する校内研修の機会を設定し、電子黒板を全職員で積極的に使うことができるような研修を深めていきたい。 ・学校HPを充実させたり、学校便り、プロジェクト便り、学級便り等々で学校の様子を知らせたりして、学校運営に関する理解を求めていきたい。

4. 総括表						
①「工夫して学ぶ子」育成に向け、自分で考え創り出す活動の実践						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価とその理由 (評価評価の方法 ・資料の分析)	成果と課題 (目標の達成状況○達成●課題、 改善策◎長期的改善○短期的改善)
教育活動	●学力向上	基礎学力の向上	・基礎学力の向上・定着を図る。	・計算フェスタ、漢字フェスタを行い、基礎学力の定着を図る。 ・各学期に「久間っこ寺子屋」を開き、個別指導を行うことで学力の向上を図る。 ・毎週火曜日の朝の時間に「すくすくタイム」を実施し、国語・算数の力を定着させる。	A ・学力調査(国・県の学力テスト及びCRT) ・平成26年度学校評価外部(児童)アンケート「先生の話をよく聞き、授業を受けている」よくできた48.2%↑ まあまあできた43.8%↓	○学力向上については、客観的な資料となる学力調査(CRT)実施後に、分析を行う。現在の状況として、話をよく聞き、授業を受けている児童は、92%で、熱心に授業に取り組む姿勢が読み取れる。 ○児童の読書状況については、外部アンケート(児童用)の結果、90.2%の児童が進んで読書をしていると回答していることから、意欲的に読書をしていると考えられる。 ○家庭学習チェックシートに取り組む時期を生活習慣がくずれやすい時に行うことで、児童自らが家庭学習に対して日常的にふり返り、よりよい学習習慣が身についてきている。 ●表現する力の育成では、自分の考えをノートにまとめたり発表したりすることが出来る児童は71.4%と目標数値よりも低い。ノートに考えを表現することは出来ている。ただ、よくできたと自信を持って答えることができた児童が減り、だいたいできたと答えた児童が増えたことから、ノートには書けるがそれを発表することが出来ていないものと考えられる。 ●ICTを活用した算数科の授業研究会を行ったり、日常的にICT機器を活用した授業実践を行ったりして、授業改善を行うことで、児童が意欲的に学習に取り組めるようにする。 ○学校やクラスのために進んで活動している児童は、87.5%で目標値を上回っている。今後も継続して責任と役割を与え、充実感を味わわせたい必要がある。
		読書活動の充実	・読書が好きと感じる児童を80%以上にする。	・朝の時間に読書タイムを行い、静かな授業の始まりを迎える。 ・週末読書や読書回覧板に取り組み、家庭での読書の習慣化を図る。 ・図書館祭りや読み聞かせを実施する。	B 「朝読書など、進んで読書をしている」よくできた40.2%↑ まあまあできた50.0%↑	
		家庭学習習慣の確立	・家庭学習に取り組む方法が分かり、自ら家庭学習に取り組めると回答する児童を80%以上にする。	・家庭学習チェックシートに取り組むことで、家庭学習指導の徹底、学習準備の徹底や学習習慣の確立を図る。 ・家庭学習の手引きを配布し、学年に応じた学習時間や内容の充実を図る。 ・家庭学習(自学)ノートコンテストを実施し、更なる内容の充実を図る。	A 「自分で考えたり発表したりしている」いつもしている13.4%↓ だいたいしている58.0%↑ 「学校やクラスのために進んで活動している」いつもしている42.9%↑ だいたいしている44.6%↑	
		獲得した知識・技能を活用し、表現する力の育成	・自分の考えをノートにまとめたり、発表したりすることができると回答する児童を80%以上にする。	・校内研修の充実を図る。 ・自分の考えをまとめる時間や伝え合う時間を充実させる。	B	
		ICT利活用教育の推進	・ICT利活用教育の現状を知る。 ・本年度中に1回以上は、ICTを利活用した授業を行う。	・電子黒板やICT機器等についての校内研修会を行う。 ・ICTを利活用した教育の研修会参加や実践事例調査を行う。	B	
	○子どもの活動づくり	児童会活動の工夫	・児童集会、委員会活動、代表委員会で「責任を持って自分の役割を果たすことができた」と回答する児童を70%以上にする。	・計画的、自主的な児童集会や委員会活動を実施する。 ・代表委員会を実施し、一人一人が楽しい学校生活にしようという意識をもたせる。	A	
		学級活動の充実	・係活動や当番(日直・掃除・給食)活動で「責任を持って自分の役割を果たしている」と回答する児童を70%以上にする。	・学級において、仕事を担う意義を理解させ、計画・実践・ふり返りの時間を保障し、活動の支援や助言を行う。	A	

②「強くて逞しい子」育成に向け、進んで運動に親しむ活動の実践						
領域	評価項目	具体的目標	具体的目標	具体的方策	評価とその理由 (評価評価の方法 ・資料の分析)	成果と課題 (目標の達成状況○達成●課題、 改善策◎長期的改善○短期的改善)
教育活動	●健康・体づくり	望ましい生活習慣の形成	・毎日必ず朝食をとる児童95%を目指す。 ・目標の就寝時刻に寝る児童を90%以上にする。	・毎月、保健だより・食育だよりを発行し病気の予防法や食事の大切さを保護者に伝える。 ・朝食をバランスよく食べることや睡眠の大切さを保護者や児童に伝える。 ・毎朝の健康観察時に児童の就寝時刻を調べる。 ・長期休業明けに生活習慣チェックシートを配布し、生活習慣を見直す機会を設ける。	A ○学校評価アンケート(児童用) ・毎朝、朝食を食べて学校にきている・・・4(92.9%)3(5.4%)2(1.8%)1(0%) ・目標のねる時刻までに毎日ねている・・・4(42.9%)3(46.4%)2(8.9%)1(1.8%) ・昼休みには外で運動したり、遊んだりしている・・・4(44.6%)3(36.6%)2(17%)1(1.8%) B ・縦割班やクラブ活動で、友だちと楽しく活動できている・・・4(56.3%)3(37.5%)2(3.6%)1(2.7%)	●朝食を「全く食べない、ほとんど食べない」とこたえる児童をへらす。 ○就寝時刻に関しては、個人懇談で啓発を行った。今後も、指導、啓発が必要。 ○がんばるマラソンやくまリンピックチャレンジランドの取り組みは成果あった。 ●取り組みがあっていないときに昼休みに外に出て遊ぶ児童が少なめなので、今後外遊びを推進していきたい。 ○縦割遊びは、楽しんで取り組んでいた。特に、低学年は縦割遊びを楽しみにしていたようだ。本年度は雨の日も室内遊びを行えたので、より楽しめたようだ。 ●クラブ活動は児童の自主的な活動になり、楽しい活動になるように指導、支援を行っていく。
		運動習慣の定着化	・昼休みに外に出てよく遊ぶ児童を85%以上にする。	・いろいろな運動を紹介し、児童に奨励する。(縦割共遊、がんばるマラソン、くまリンピックチャレンジランド) ・外遊びを奨励する。(前期は学級で、後期は全校的取り組みを行うようにさせる。) ・天気の良い日は外で遊ぶように放送で呼びかける。		
	○子どもの活動づくり	縦割り活動・クラブ活動の充実	・縦割り活動で「他の学年の人と楽しく活動できた」と回答する児童を70%以上にする。 ・クラブ活動で「他の学年の人と協力して活動できた」と回答する児童を70%以上にする。	・異学年で共通の興味・関心を追求させながら、活動計画や準備を事前に知らせたり、活動中の進行等をしたたりする自主的な活動の場を保障する。 ・異学年で交流する楽しさを味わえる、場と時間を保障する。	A	

③ 「心やさしい子」育成に向け、人の気持ちを考える活動の実践						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価とその理由 (評価評価の方法 ・資料の分析)	成果と課題 (目標の達成状況○達成●課題、 改善策◎長期的改善○短期的改善)
教育活動	●心の教育	道徳教育の推進 人権・同和教育の充実	・年1回以上、道徳の授業を公開する。(6月の授業参観「ふれあい道徳」) ・6月、12月に人権集会を2回実施し、人権標語を募集する。	・道徳の教科書を活用する。 ・「心やさしい子」プロジェクトからふれあい道徳について提案する。 ・いじめのない学校づくりに向けて、情報発信をする。	A ○学校評価アンケート(職員用・児童用) ・道徳教育 職員…道徳の授業を計画的に実施している。(4…22. 2%、3…77. 8%) 100% 児童…学級や学校が楽しい。(4…45. 6%、3…45. 6%)91. 2% 友達の気持ちを考えて行動している。(4…29. 8、3…57. 0)91. 2% ・特別支援 職員…支援を必要とする児童について理解し、指導に生かしている。(4…18. 2、3…63. 6)81. 8%	○人権集会や平和集会では、異学年でゲームをしたり、折鶴を折ったりすることで児童の交流が深められた。2学期にロングの人権集会を設け、読み聞かせ、学級のめあてなどを立て人権旬間では、ボランティアパスポート、ふわふわ言葉等友達の良いところを見つける活動を通して、豊かな心を育むようにした。 ○支援を必要とする児童については年度当初より、定期的に職員間で共通理解を図る機会を設けて児童理解が深まった。来年度は目安となる目標値を85%以上に設定した。 ○生徒指導について月目標を全校朝会で知らせたり、達成状況について話し合いを持ち、指導に生かしたりすることができた。あいさつについては、児童の意識は高いものの、外部からは、「元気がない」や「進んであいさつができない子がいる」といった声も寄せられており、この点に関しても今後さらに指導の強化を図っていきたい。 ○いじめの防止・早期発見については、本校「いじめ防止基本方針」のとり、相談箱の設置や生活アンケートの実施、児童に対する日々の観察・聞き取り・指導に努めてきた。年間を通して、心配な事案はなかった。 ○自転車安全教室や見守り隊との交流会、毎月初めの防犯ブザー点検や集団下校等を実施し、児童の登下校の安全に対する意識の向上に努めてきた。
		特別支援体制の確立	・支援を必要とする児童を把握し、個別の支援計画を作成する。 ・特別支援教育について理解し、取り組んでいると答える職員を80%以上にする。	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・特別支援教育コーディネーターを中心とした部会を定期的に開催する。 ・SC、特別支援学校等と連携し、支援・指導方法の研修をする。	A ・生徒指導 職員…生徒指導の向上に努めている。(4…27. 3%、3…63. 6%)90. 9% 児童…掃除を一生懸命している。(4…39. 3%、3…51. 8%)91. 1% 進んで挨拶をしている。(4…67. 9%、3…26. 8%)94. 7% 保護者…学校は、子どもたちを事件や事故から守るために配慮している。(4…47. 0%、3…36. 0%)83. 0% ・教育相談 職員…子どもとの会話を大切にしている。(4…25. 0%、3…66. 7%)91. 7% 児童…相談する人がいる。(3…44. 7%、4…37. 7%)82. 4%	
		生徒指導の充実	・人の気持ちを考えることができると回答できる児童、90%以上をめざす。 ・よく働くことができたと回答できる児童、90%以上をめざす。 ・あいさつの評価が、児童・保護者アンケートで90%以上をめざす。	・挨拶、そうじ、思いやりの3点について月ごとに具体的なめあてを設定し、プロジェクト部会を中心に達成状況を評価しながら年間を通して学年に応じた指導を行う。	A ・安全 職員…安全に生活ができるようにしている。(4…33. 3%、3…66. 7%)100% 児童…登下校時、事件や事故にあわないように気を付けている。(4…66. 7%、3…24. 6%) ・いじめ 職員…いじめの防止・早期発見に努めている。(4…36. 4%、3…63. 6%)100% 児童…学級や学校が楽しい。(4…45. 5%、3…44. 6%)92. 1%	
		教育相談の充実	・気になる子の共通理解、支援の在り方の充実を図る。	・毎月の職員会議で支援の必要な児童の実態について情報交換し、支援方法の検討をする。 ・ハイパーQUを使い、児童の実態把握を行う。		
		安全な学校づくり	・児童のアンケートで登下校の際、安全に気をつけている児童が90%以上をめざす。 ・学校の決まりを守って安全に生活できるようにする。 ・保護者・教職員の90%以上が、学校の安全に対する取り組みを評価する。	・一年生の交通教室・三年生の自転車教室を関係機関の協力を得て行う。 ・児童に分かりやすい安全指導・清掃指導を行う。 ・毎月始めに、全校一斉の安全点検を行う。 ・年3回の避難訓練を行う。 ・PTA、地域、関係団体と連携した安全確保の体制を構築する。	A	
	●いじめ問題への対応	・いじめのない学校づくり	・児童にアンケートを行うことにより、いじめを許さない意識付けを図る。	・児童のアンケートを年2回実施する。(7・12月) ・児童のアンケートを基に児童との面談を実施し、いじめの早期発見、よりよい解決に努める。	A	

④保護者・地域との連携を深めるコミュニティ活用の推進							
領域	評価項目	具体的目標	具体的目標	具体的方策	評価とその理由 (評価評価の方法 ・資料の分析)	成果と課題 (目標の達成状況○達成●課題、 改善策◎長期的改善○短期的改善)	
学校運営	○保護者・地域との連携	保護者・地域との連携とコミュニティによる学習支援体制づくり	・保護者の授業参観率を80%以上にする。 ・コミュニティによる学習支援体制を活用した授業や活動を実施する。	・学校だよりやHP等で早めに授業参観日や懇談日を知らせ、参加しやすいようにする。 ・各教科や総合的な学習の時間における年間計画を早めに作成し、今年度から発足した学校運営協議会の活用し、コミュニティと連携強化を図りながら、見通しを持った運用を行う。	A ・保護者の授業参観率…5月授業参観-82%(昨年77%)・6月授業参観-71%(昨年63%)・10月日曜フリー授業参観-129%(昨年124%)・12月久間っ子集会参観-107%(昨年69%)…平均97.5% ・職員アンケート「地域の教育力を活用した実践を行っている。」A(あてはまる)-40.0%・B(だいたい)-30.0%・合計-70.0% ・「地域人材」活用の授業・活動 1年生-1月昔遊び体験・2月体験入学 2年-7月川の生き物探し・ザリガニ釣り・9月野菜作り・10月野菜作り・11月芋パーティー・1月大根収穫祭 3年-1月火事から人々を守る 4年-11月志田焼調べ・12月もちつき・2月木工サポーター 5年生-9月野菜作り・11月ミシンサポーター 6年生-7月志田焼体験・茶道体験活動・11月ラジオ作成教室 全年-夏季休業中補充学習指導「久間っ子寺子屋」・9月フォークデュオ「ワルツ」コンサート	○保護者の授業参観率は、平均すると97.5%で、昨年度比で大きく上回った。 ○久間コミュニティと連携した地域連携のシステムが、確立されてきた。協力をしていただく地域の方々に、感謝したい。 ○久間コミュニティとの連携活動計画を学校教育計画とリンクさせ、確実に位置づけたことが功を奏している。 ○「地域人材」を活用した授業の実施で、学習に魅力を持たせることができ、それが児童の学習意欲の向上へつながった。また、児童・職員が地域のよさに目を向け、職員の地域人材活用の効果への理解も深まった。昨年にも増して、職員の意識には、なくてはならないものにとらえられるようになった。	◎確立されてきた久間コミュニティとの地域連携システムをうまく活用し、コミュニティスクール事業をさらに発展させていきたい。
⑤本年度の重点項目に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	具体的目標	具体的目標	具体的方策	評価とその理由 (評価評価の方法 ・資料の分析)	成果と課題 (目標の達成状況○達成●課題、 改善策◎長期的改善○短期的改善)	
学校運営	○学校経営方針	本年度の学校目標、重点目標の周知 職員の学校運営への参画	・保護者に周知し、おおむね知っている人が90%以上になるようにする。 ・学校運営に参画しているという意識が持てたと答える職員を90%以上にする。	・学校だより、PTA総会、学級懇談会等で周知し、具体的な取組を説明する。 ・各プロジェクトチームで評価項目・方策を作成・実践し、職員の参画意識を高める。	B ◇児童アンケート 「みんなでがんばる目標を知っている」「よく知っている」-74.6%・「だいたい」-20.3%・合計-94.9% ◇保護者アンケート 私は、久間小学校の教育目標(く・ま・つ・こ)を知っている「よく知っている」-36.8%・「だいたい」-40.0%・合計-76.8% ◇職員アンケート 「学校(私)は、学校(学級)目標を達成するための取組を行っている。」A(あてはまる)-18.2%・B(だいたい)-81.8%・合計-100%	○学校教育目標の周知については、児童は良く知っている。全校朝会で「くま・つ・こ」の「くま」は？「つ」は？「こ」は？と、反復して話をしていただけであろう。 ●保護者アンケートでは、本年度は80%にさえ届かなかった。 ○職員の意識が向上した。各職員への自覚化が図れたのではないだろうか。学校教育目標の達成のための実践ができていると遠慮せず答えられるような職員が増え、手応えを感じているからだと考える。	◎昨年度よりも保護者の値は下がってしまった。保護者への学校目標のアピール度を上げるような工夫をしていかなければならない。学校目標を意識した実践を学級で積み重ね、その広報にさらに努力をしなければならぬ。

